



# 静脩

2010年10月

The Kyoto University Library Network Bulletin

Vol. 47. No. 2

静脩企画 教員から学生諸君へ

## 「私がすすめる図書館利用法」

このたび静脩では、学生みなさんに、もっと図書館を活用していただこうと、『教員から学生諸君へ「私がすすめる図書館利用法」』を企画しました。学内の、文系から理系まで7名の教員の方々からメッセージをいただきました。学生時代からこれまで、先生方はどのように図書館を活用してこられたのでしょうか。学生みなさんも、先生方からのメッセージを参考に、これからは是非、図書館に親しんでいただければと思います。

## 学術雑誌を楽しむ

文学研究科教授 吉川 真司

何年か前から、学術雑誌を捨てるようになった。雑誌が届くと、さっと目を通す。面白そうな論文や記事があれば、のんびり頁をめくる。書評・紹介の芸を堪能し、型どおりの編集後記にあきれ、広告を眺めれば、それで終わりである。特定の学会誌は保存

するし、解体して「抜刷」を作ることもあるが、多くの場合、そのまま捨てる。

なぜこんなことをするかと言うと、置き場所がないからである。それに、自分で持っていてもなかなか見つからず、すぐにまたどこかへ行ってしまふ。私がとっている

術雑誌くらい、京大の図書館には全部揃っているから、必要になれば書庫へ見に行けばよいのである。

雑誌の書庫には格別の味わいがある。長い歴史を持つ一流雑誌も、いつの間にか消えた珍しい雑誌も、同じような格好に製本され、仲良く並んでいる。

見た目は書籍とかなり違うが、中身はさらに異なっている。同じ雑誌でも記事内容は玉石混淆であるし、ノイズと言うべき情報がたくさんつまっている。ある論文を探しに行くと、その前後の記事を読みふけったり、学界消息や広告を楽しんでしまうのは、よくある話だろう。発行されたころの学問のかたちが、古ぼけた学術雑誌には凝縮されている。

さまざまな必要から、一つの学会誌を数十年分めくってみることもある。これは実に面白い。時とともに版面や紙質が変わっていくのは当然のこととして、内容や構成も着実に変化していく。研究者集団の興味・関心、そ

れを論文や記事として表現する作法、学会がその際に果たす役割の移り変わりを、生き物の成長（あるいは老化）のように感じとることができるのである。紙の匂い、活字の圧痕、鉛筆の書き込み　モノとしての雑誌からしか得られない情報が、そうした感覚を明らかに支えている。

学会誌の「長期ブラウジング」は、歴史のある図書館でしか行なえない作業である。人文学にとって、それは決して後ろ向きの作業ではない。今を生きる私たちが考え、書き、行なっていることを相対化させる知恵が、ふんだんに含まれている。頁をめくっていくことで獲得される不定形の感覚が、新しい発想や活力を生み出してくれる。

雑誌は時代を映し出す鏡であり、それは学術雑誌でも同じである。今の空気を吸ったら、すぐ用済みにしてもよい。図書館に雑誌書庫があるから、それで大丈夫なのである。

（よしかわ しんじ）

## お勧めの「私の図書館活用法」

理学研究科生物学専攻教授 疋田 努

パソコンとネットワークの発達は急速で、卓上から必要な文献を捜し、所蔵検索でどこにあるかを調べるのが簡単にできるようになった。電子ジャーナルはそのまま pdf ファイルでダウンロードできるし、入手の困難だった 18 世紀、19 世紀の文献も次々にスキャンされ、ネット上で見るできるようになってきた。しかし、それはまだ一部で、やはり図書館の書庫に入って直接文献に当たる必要がある。

私の専門分野の動物分類学では、1758 年のリンネの *Systema Naturae* 自然の体系<sup>1</sup> 10 版を出発点とするので、それ以前の文献や、明治以前の和文の文献に興味がなかった。しかしクサガメの遺伝的な変異を調べている私の研究室の大学院生鈴木大さんが持ってきた江戸時代の文献をきっかけに江戸時代以前の本草学の文献も調べるようになった。クサガメは、イシガメ、スッポンと同様に日本列島の在来種であると考えられてきたの



だが、最近外来種の可能性が指摘されてきたのである。

クサガメとイシガメが区別された最初の文献は、江戸時代後期 1803-1805 年に出版された本草綱目啓蒙<sup>2</sup>である。著者の小野蘭山(1729-1810)は、京都丸太町に塾を開いていた本草学者である。薬学部の図書室が所蔵していた和綴りの木版印刷された原本は、漢文の引用もあって漢字が難しいだけでなく、合

略仮名や変体仮名もあり、なかなか若い世代の人には読むのが難しい。本草綱目啓蒙には、秦亀(ヤマガメ)の項に「形大ニシテ黄色臭気アリ」、水亀(イシガメ)の項に「色黒クシテ臭気ナキモノ」と区別されており、臭い亀がクサガメに当たることがわかる。そこでこの前後の文献をさらに調べて行った。

和名類聚抄(931-938)<sup>3</sup>を始めとして、本草綱目(1593)<sup>4</sup>とその翻訳、日葡辞書(1603)<sup>5</sup>、大和本草(1709)<sup>6</sup>、和漢三才圖會(1712)<sup>7</sup>、Fauna Japonica(日本動物誌、1835)<sup>8</sup>などである。ありがたいことに、これらの文献は京大内の図書館、図書室に原本や解説書が所蔵されており、ほとんど全てを見ることができた。文献調査の結論は江戸時代以前には淡水のカメ類は、イシガメとスッポンだけで、クサガメがいたという証拠は文献から見つからなかった。クサガメの和名が文献上現れるのは明治になってからである。

文献を捜すために、書庫に入ると、目的の書籍の以外の収穫がある。近くの書棚には関連した文献が並んでいる。これはネットの検索ではなかなか見つからない。やっぱり図書館の利用は、書庫の探索が基本じゃないでしょうか。

(ひきだ つとむ)

<sup>1</sup> 学内所蔵 理生物 生物学図書室 EX#27  
電子図書館貴重資料画像にもあり  
[http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/b22/linne\\_cont.html](http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/b22/linne_cont.html)

<sup>2</sup> 学内所蔵 薬 1階図書室 48032#本網#12-4

<sup>3</sup> 学内所蔵 附図 04-85#ワ#01 貴 1150695  
附図 B2 書庫 4-85#ワ#24  
附図 B2 書庫 4-85#ワ#25

<sup>4</sup> 学内所蔵 医 医図第2書庫 法医#259  
薬 1階図書室 本網#7#A-1

<sup>5</sup> 学内所蔵 附図 B2 書庫 4-81#二#9 ほか

<sup>6</sup> 学内所蔵 理生物 生物学図書室 BJ#4#1  
薬 1階図書室 968258#Y#8-2  
薬 1階図書室 137552#Y#6-1

<sup>7</sup> 学内所蔵 人環総人 B1 書庫 030#22#三高和

<sup>8</sup> 学内所蔵 理生物 生物学図書室 EX#37#1  
電子図書館貴重資料画像にもあり  
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/b05/b05cont.html>

## 未刊の本 を探すこと

人間・環境学研究科教授 西山 良平

図書館は本を探すところである。本のほか、古文書・古典籍、最近では情報を集積してはいるが、本が基本であることは当面動かない。その本は日々、膨大な量が刊行されている。しかし、本の刊行のシステムには欠陥もあり、どの本を読むかの選択がもっとも重要になる。まず、優れた本が刊行されることに問題はない。私のお薦めは屈指の研究者の全集とか著作集を読むことである。第一に、全集や著作集が刊行されている著者はそれだけで優れた研究者である可能性が高い。私が全集や著作集を薦めるもう一つの理由は、その各冊に「解題」「解説」がついていることである。本は何かの指針や方針に基づいて読むべきである。その場合、「解題」「解説」は著者の意図や研究の変化・現時点での評価が述べられており、頭の中で整理しやすい。学術情報の整理がしやすいわけである。

ところで、本の刊行システムの欠陥は出来のよくない本が刊行されうることと、学術研究の立場からこの著者の本が必要だと思われても、その著者の本がまだ刊行されていないことである。つまり、本には出来の良し悪しが相当にあり、出ていてほしい本が未刊のことがしばしばある。したがって、読む本の選択がますます重要になるわけである。最近、ある必要から何人かの研究者の論文をまとめ読みしたが、その幾人かはまだ本として刊行されていなかった。これには様々な理由があろうが、その未刊の本の場合には、どうするか。様々な情報から著者の論文を探し出し、リスト



を作って、その論文を集め、「解説」「解題」を書くつもりで、読むことである。論文の情報源には国立情報学研究所のCiNii (NII論文情報ナビゲータ)<sup>9</sup>や、私の専門分野に近いところでは国文学研究資料館の国文学論文目録データベース<sup>10</sup>、本のレベルでは、京大のKULINE、日本書籍出版協会のBooks.or.jp<sup>11</sup>などがある。その後は論文のありかを探し、図書館で入手して回るわけである。論文は必要なものだけ入手するのが普通だが、優れた著者の論文のまとめ読みは、その著者の関心のあり方や学会の水準がよくわかり、よい勉強になる。ただ、未刊の本を探す上で、最大の難関はその優れた著者を特定することである。そのためには、読む本人が優れた著者・研究者を探す能力を高めること、つまり不断に学ぶ以外にはない。

(にしやま りょうへい)

<sup>9</sup> URL <http://ci.nii.ac.jp/>

<sup>10</sup> URL <http://base1.nijl.ac.jp/ronbun/>

<sup>11</sup> URL <http://www.books.or.jp/>

## 「大学図書館とは書庫である」

教育学研究科准教授 佐藤 卓己

この原稿を引き受けるのには、ためらいがあった。大学図書館の利用法をふり返った際、最も記憶が欠落しているのが学部学生の頃だからである。大学年表を見ると、現・京都大学附属図書館の開館記念式典は1984年3月、私の卒業とほぼ同時である。1・2回生のときに解体前の旧図書館で書庫に何度か入った記憶はあるが、3回生以降は現・時計台記念館にあった仮設閲覧室で本を読んだ記憶があるばかりなのだ。それゆえ、京都大学附属図書館の書庫に私が籠もるようになったのは大学院に進学してからである。結局、学部学生として図書館と理想的な出会いをしたと言えないのである。以下、学部学生ではなく大学院生を読者と想定して書くゆえである。

大学院時代の私は、他研究科の部局図書室を含めよく書庫に入り浸っていた。具体的な本を借り出すときも、必ず自ら書庫に入り、当該本が配架されている周囲の棚をすべて見て廻った。そこには予想外の本があることも多く、書庫内で何時間も読みふけることも多かった。私の修士論文は雑誌研究だったが、書庫内でバックナンバーを読むのが好きだったこともあるいは影響し



ていよう。ちなみに雑誌研究の基本は、創刊号から終刊号(刊行継続中なら最新号)までとにかく全部に目を通すことである。通時的に頁をめくっていくことで、紙質、ページ数、広告量など、何よりも「時代の動き」を体感できる。とはいえ、最近は雑用に追われて、何時間も書庫内に籠もることが難しくなった。その意味でも大学院時代は本当に贅沢な時間を過ごしたと思う。

それゆえ「おすすめの図書館活用法」とは、書庫に籠もることである。ただし、この点では本学附属図書館には少々不満がある。書庫内には書籍や雑誌のバックナンバーを読むためのスペースがほんのわずかし確保されていない。むしろ、長くいるなど言わんばかりの環境である。私が最近よく利用する同志社大学、関西大学の図書館は書庫内の壁際に照明の付いた立派な机と椅子が並べられている。この機会に書庫内の読書環境を整備していただきたいものである。

(さとう たくみ)



## 出会いの場としての図書館

経済学研究科准教授 竹澤 祐丈

近世・近代の英国の社会思想史を専門とする私にとって、教育・研究に不可欠の存在が図書館です。大学院生以来、京大に限らず様々な図書館のお世話になりました。その拙い経験に基づいて、図書館のお勧めの利用法について書いてみたいと思います。

最近では自習室としての重要性も増していますが、図書館とは、基本的には、様々な図書、資料、手稿、草稿など（近年では、電子データベースなども）を保管・提供する場所です。そこでの中心的な活動は、目当ての書籍や資料を扱いつつ、それを読みまとめ考えることでしょう。この側面から見ると、図書館とは書籍や資料の保管・利用の場所ということになります。

しかしながら、図書館の機能はそれに限られません。図書館とは、「出会いの場」でもあるのです。それは、意図したものもあれば、意図しないものもあります。

意図した出会いとは、自分が探すべき書籍や資料が明確にわかっているときに、それらに相對することを意味します。このような出会いは、図書館を利用する多くの人が経験することでしょう。

では、意図しない出会いとは何でしょうか。これが、わたしの考える、お勧めの図書館利用法に関わります。意図しない出会いとは、わたしたちが図書館を利用する直接の目的ではないにもかかわらず、図書館を利用するときに生じうる出会いです。それには、未知の書籍やテーマ、そして人との出会いがあります。

例えば、図書館の書籍・資料は、分野別、



主題別に分類・配架されていますので、利用したい書籍を探すときに、たまたまその隣にあった、存在すら知らなかった魅力的な本に出会うことがあります。その本を読むことによって思索が進んだり、未知のテーマを発見したりということが起こります。このようなアナログ式によってもたらされる偶然の出会いがあるのも図書館の魅力でしょう。

意図しない人との出会いもあります。大きな図書館や貴重書庫ではよくあることですが、自分が興味をもつ書架は、やはり同じテーマに関心を持つ人も利用しています。ちょっと頑張って話しかけてみると、同好の士を発見する喜びを味わえるかもしれません。生涯のライヴァルもあなたの周りにいるのかもしれませんが。彼らとの会話によって新しいテーマに出会うこともあります。わたしも学部生時代に知りあった他学部のひとたちと読書会をするようになり、今でも続いている交遊もあります。これ以外にも、レファレンス情報を提供する職員の専門的

知識の高さに唸るという出会いもあると思います。

図書館を利用する本当の楽しみは、今述べたような未知の書籍やテーマ、そして人との意図しない出会いにあるのではないのでしょうか。世知辛い昨今の社会情勢ですが、

このような出会いを期待しつつ、ゆったりと図書館で時間を過ごしてみてください。もっともこのような楽しみ方を一番必要としているのは、他ならぬ、あくせくしているわたし自身なのかもしれませんが。

(たけざわ ひろゆき)

## 図書館(基礎勉強)と電子図書館(先端情報収集): 両輪の文献検索

工学研究科電気工学専攻准教授 中村 武恒

私は、主として超伝導技術を適用した電気自動車の研究開発を行っています。このプロジェクトを進めるためには、超伝導技術はもとより、導電材料・磁性材料の知識、回転機の一般論・解析技術・設計技術、パワートレイン技術、インバータ・制御技術、熱特性、機械特性他、学際的な知識・技術を統合する検討が求められます。また、電気自動車はこれからの技術ですので、如何に効率良く得た知識を研究開発に生かせるかが重要です。従って、大学の図書館を利用するのですが、私は主に基礎勉強は図書館で、先端情報の収集は電子図書館で行っています。

まず、導入したい技術について自分が素人である場合、テキストで基礎勉強から始める必要があります。テキストは、勿論知り合いの専門家に尋ねて購入したりするのですが、実は大学図書館や専攻図書室には次のようなメリットがあることに気がきました。勉強したい学問分野に関連する専攻の図書室には、必ずその専攻の先生方が推薦されている図書が置かれています。これは、素人が効率的に勉強する際に大変役立ちます。



つまり、京都大学で先端研究をされている先生方が勉強されてこられた、あるいは学生に推薦される良書が置かれていますので、私たちはそうした推薦図書で勉強することにより、効果的に知識を身に付けることができます。私は、非専門の学問分野に関しては、大抵出来るだけ分厚く詳細に書かれている図書を複数冊借りて、勉強することにしていきます。

ある程度基礎知識が固まったら、今度はその分野の最先端研究について情報を収集していきます。この情報は、主として専門誌(ジャーナル)の論文から得るのですが、膨大な種類のジャーナルから適切なものを

探す必要があります。これにも、図書室が役に立ちます。図書室には、その分野についてある程度メジャーなジャーナルは紙媒体で置かれていますので、それに少し目を通し、もし理解するための知識が追いついていない場合は再度テキストに戻る、というフィードバックの作業を暫く行います。そして、何となくでもジャーナルの内容が理解できるようになれば占めたものです。それからは、図書室に置かれている雑誌について電子ジャーナルがある場合、それを検索して論文を入手できますので、情報収集の効率は格段に向上します。さらに、電子ジャーナル利用に際しても知識向上のチ

ャンスがあります。つまり、膨大な電子ジャーナルの情報から目的の論文を効率的に探し当てるために、大抵は検索エンジンがついていて、それに論文のキーワードや、著者、発行年などを入力するのですが、必要な論文が得られたときの検索ワードは、実はそのまま最先端研究の情報なのです。従って、論文検索ヒット率の高いキーワードを使って他のリソースを探すことにより、芋づる式に情報を得ることができます。

以上、私の図書館利用法のご紹介です。執筆の機会を与えて下さった皆様に御礼申し上げるとともに、益々のご発展をお祈り致しております。

(なかむら たけつね)

## 先生から学生・院生への「おすすめの図書館活用法」

医学研究科助教 猪飼 宏

大学生の6年間、院生の4年間、教職員として3年半、あわせて10年以上を京大で過ごしながら、立場に応じてさまざまに図書館を利用してきた。

学生時代は昼寝・新聞・ときどき自習、さらにはレポートや勉強会に備えて附属図書館(以下「附図」という)や医学図書館(以下「医図」という)の関係ありそうな本棚をうろついてみる程度。

京大病院勤務中や大学院生の頃には、診察中の疑問を電子教科書で解決したり、さらに文献を取り寄せて調べたり、など。

現在は教員として自分で文献を調べる他、学生さんの調べ物を司書さんに手伝って頂くことが増えたが、その知識の深さにとっても助けて頂いている。また、人間・環境学研究科総合人間学部図書館(以下「人環・総人



図」という)や附図などにたまに足を伸ばすと、専門外の書棚に面白い情報が転がっていることが多い。

学部生には、自力で文献を探す努力を土台にして、さらに司書さんに相談してその技術を深めることを勧めたい。手近なとこ

るで Google 検索の検索語にすら「技」はあるものだし、Google で見つからない情報が KULINE や文献データベースで手に入る例は数知れない。「参考調査掛」の看板に敷居の高さを感じている学生さんは、検索キーワードの相談から始めてはどうだろうか。

大学院生には、自分の専門外の文献データベースで遊んでみることをお勧めする。例えば結核対策について医学文献データベース<sup>12</sup>で調べるのはもちろん有用だが、社

会学(SCOPUS)<sup>13</sup>・新聞データベース<sup>14</sup>など切り口を加えることで各国政府の対応や経済への影響も分かり、問題理解に深みが生まれることがある。最近リニューアルされた医図のウェブサイト<sup>15</sup>はまさにこの視点に立ったもので、是非一見をお勧めしたい。

その他、最近気づいた「お得な情報」は、人環・総人図での旅行ガイドの充実ぶり。長期休暇の旅行には是非活用を。

(いかい ひろし)

<sup>12</sup>(例)

PubMed (京大専用入口)  
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/sites/entrez?otool=ijpktolib>  
 医中誌 Web  
<http://login.jamas.or.jp/enter.html>

<sup>13</sup> <http://www.scopus.com/>

<sup>14</sup>(例)

LexisNexis Academic  
<http://www.lexisnexis.com/ap/academic/>  
<sup>15</sup> <http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/>

## 12月以降の図書館講習会予定

### < 附属図書館 >

定期講習会(30分～1時間程度)を月2回程度

- ・資料の探し方: KULINE
- ・学術論文の探し方: 日本編 CiNii
- ・学術論文の探し方: 海外編 Web of Science
- ・文献管理ツールの使い方: RefWorks
- ・論文・レポートの書き方と文献の集め方

データベースベンダーによる講習会

- ・SciVerse Scopus & SciVerse  
ScienceDirect 講習会  
12/15 10:30 - 12:00

個別対応講習会

- ・グループ・ゼミ単位での文献収集講習会
- 問合せ先: 附属図書館参考調査カウンター  
 TEL: 075-753-2636  
 E-mail: ref@kulib.kyoto-u.ac.jp

### < 附属図書館宇治分館 >

- ・SciVerse Scopus & SciVerse  
ScienceDirect 講習会  
12/16 13:00 - 14:30 生存研セミナー室1
- 問合せ先: 宇治分館 TEL: 0774-38-3010

### < 医学図書館 >

- ・RefWorks 講習会  
12/3 16:30 - 18:00 基礎第1講堂
  - ・EndNote 講習会  
12/6 16:30 - 18:00 基礎第1講堂
  - ・SciVerse Scopus & SciVerse  
ScienceDirect 講習会  
12/16 16:30 - 18:00 基礎第1講堂
- 問合せ先: 医学図書館閲覧担当  
 TEL: 075-753-4323  
 E-mail: ref@office.med.kyoto-u.ac.jp

### < 工学研究科・桂地区 >

- ・SciVerse Scopus & SciVerse  
ScienceDirect 講習会  
12/15 14:45 - 16:15 地球系講義室3
- 問合せ先: 桂建築系図書室  
 TEL: 075-383-2962

\* 京都大学所属の方を対象としています。  
 \* 最新情報や詳細は Web サイトをご覧ください。

## 教育学研究科・教育学部図書室～耐震改修工事を終えて

教育学研究科・教育学部図書室（以下「教育学部図書室」）は学部の設置に続く1952（昭和27年）文学部（教育学教授法講座）よりの移管図書を基礎に設けられました。附属図書館北隣に位置する教育学部本館内にあり、現在蔵書数は16万冊近くにまで増加しています。

学内の多くの図書館・室と同様書庫の狭隘化に悩まされ、核となる教育学部本館の開架書庫以外にも2箇所の書庫をフル稼働させて資料を収容していました。さらには別置先の建物の耐震改修工事により移動を余儀なくされたり、教育学部本館そのものの耐震改修工事が始まったりといった理由から、外部倉庫預かりとなっていた資料もありました。利用者の皆様には本当にご不便をおかけしておりました。

平成21年度末の耐震改修工事完了とそれに続く再配置作業により、教育学部図書室は大きく生まれ変わりました。

入口は以前と同様教育学部本館、西側玄関です。以前カウンター奥にあった閲覧室は地下書庫内に移動しました。書架にぐっと近く



閲覧カウンター



閲覧室（地下に移ったが採光は充分）

なり、席数も17席に増加しました。2室に分かれた閲覧室の一方には参考図書を置いて落ち着いた雰囲気をも、もう一方は検索性用端末や新聞などを置いて開放的な利用を想定しています。無線LANも利用できます。

今回のリニューアルの目玉はなんといっても書庫の集中化です。専有面積が約1.35倍に増加したこともあります。電動集密書架の導入により収蔵能力が大幅にアップしました。特に、以前は年代により分割・別置されていた雑誌類が統合されて格段に利用しやすくなったと自負しております。図書についても、ぐっと見通しの良い、すっきりとした配列になりました。また以前は別置・出納制であった資料の多くを開架スペースに移動・再配置し、創設当初からの原則であった全面開架制に大きく一歩近づきました。現在は一部残った別置資料（特殊文庫や学位論文等）の再配置も計画中です。その反面、電動集密書架の採用によりブラウジングがやや不便になったことは否めません。ご存じの方も多いと思いますが、電動集密書架は1ブロック中に使用中の列が

あると安全性確保のため他の列は使用できません。利用者のみなさんには譲りあつての使用をお願いいたします。

1階部分には、カウンター、貴重図書閲覧用の閲覧席(3席)、検索用端末などをコンパクトにまとめています。利用者の方には馴染みが薄いかもかもしれませんが、これまで2室に分かれていた図書掛事務室も1箇所にとまり、全員で顔を合わせて仕事をしています。パーティションで隔てられてはいますが、カウン

ターの空気が伝わってくるのは整理業務を担当する職員にとっても良い刺激になります。ようやく居場所が定まった資料群の整理作業を鋭意進めています。増加したとはいえ、閲覧席20席というのは京都大学の部局図書室としては小さな部類に入るのでしょう。利用者、資料、職員、互いに顔の見える図書室でありたいと願っています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

(教育学研究科図書掛)

## 国民読書年 京都大学附属図書館 特別企画

### 「アカデミックに経済を読む」

11/10(水)～11/29(月)

#### 11月11日(木) 就職セミナー:新聞を通じての業界・企業研究

主催:キャリアサポートセンター

共催:附属図書館

#### 11月17日(水) アカデミックに経済を読む-歴史からみる経済-

主催:附属図書館(以下同様)

第1部 講演会 グローバルヒストリーの中の日本  
籠谷直人教授(人文研)

第2部 講習会 文献収集講座-経済を中心として-

#### 11月25日(木) アカデミックに経済を読む-大学生時代に身につけたい読書法-

第1部 講演会 今をどうとらえるか-複眼的なリサーチ、読書法のススメ-  
岡田知弘教授(公共政策大学院)

第2部 講習会 データベースで日本/世界を読む

#### 11月26日(金) 知的書評合戦 ビブリオバトル

#### 11月10日(水)～11月29日(月) 展示:Book Selection -アカデミックに経済を読む-



## 大学図書館職員長期研修に参加して

医学図書館 浜口 敦子

平成22年7月5日から7月16日まで、大学図書館職員長期研修に参加した。昭和44年に第1回が開催されて以来、42年にわたって継続されている本研修には、本学からも多くの先輩方が受講している。おそらく、時代によって開催目的の中心に据えられたテーマは変わりつつも、大学図書館が置かれた情勢や職務に関わる最新の知識を学び、全国各地の中堅職員同士が交流できる、貴重な機会であろうとの認識がまずあった。実施要項を見ると、「図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させることを目的とする」とある。予算管理を含む、医学図書館の運営に携わるようになって2年。受講が決まった翌週頃の運営委員会では、図書館のサービスが効率的に行われているかなど、職員の業務体制にも厳しい目が向けられた。図書館業務の全体像を、外に向けて積極的にアピールすることの必要性を痛感するとともに、自身の力量不足を補うためにも、特にマネジメントや問題解決のカリキュラムを参考にできればと、2週間の研修に臨んだ。

会場は、研修を主催する筑波大学の春日エリアにある施設で、北海道から沖縄まで、国公立大学の図書館職員36名が集まった。講義科目は、大きく「図書館マネジメント総論」と「学術情報流通等各論」に区分され、日程の前半にマネジメント(9コマ)、後半に学術情報の各論(13コマ)が続いた。マネジメントの方は、大学経営や大学評価といった、

図書館を取り巻く経営環境の話から、経営学の入門的な手法を図書館の場に置き換えて論じるものまで様々だったが、研修初日にして、これからの仕事に活力がわいてくる言葉をいただけただけは、強く印象に残っている。曰く、「困ってばかりではだめ」。運営費交付金が削減される状況においても、「図書館が大学の中での役割について確かな価値観を持ち、良い意味で開き直ることが大切」と、大学経営側の立場から力説された。予算の問題ではつい憂慮が先立ってばかりいるが、図書館の役割を明確にして、より広い視野で取り組むようにと励まされた思いがした。

学術情報の各論では、国内外で注目されている図書館建築や設備、そして様々な図書館の先進的なサービスを知ることができた。学習支援を目指す新しい図書館機能として、自学自習の場の提供にとどまらず、学生の活動をコーディネートする人員配置を計画する例や、講習会に問題解決の文脈を加味しながら、卒業論文を書きあげるまでをサポートする活動も紹介された。ある公共図書館では、さらに戦略的な課題解決型の情報提供サービスが、市民の起業の成功という形で結実していた。いずれも、現状を把握した上で新たなニーズを掘り起こし、応えようとする積極性が鮮明である。

そこで改めて再確認したのは、利用者のニーズ把握の重要性であった。問題発見・解決演習と、その手法を用いた班別討議の場では、各々事前に書き出した“業務の上での困り事”をグループ毎に集約して一つに絞り、解決策を系統的に掘り下げていくという手順をとっ

た。24時間開館の実践、学生が来たくなる講習会、選書方法の見直し等々、各グループが設定した課題のいずれにおいても、利用者が求めるサービスを具体的に掴むことが不可欠との意見が多く見受けられた。担当業務に照らしてみると、例えば、電子ジャーナルを含む外国雑誌の選定は、主に教員等研究者中心で行うため、大学院生の要望を広く聴取する仕組みは整っていない。提供中のデータベースに対する充足度はどうなのか。グループ学習室やレポート作成のための情報コーナーのあり方は、学生の利用のニーズとマッチしているのか。特に、電子ジャーナルやデータベ



(筑波大学本館 4F から)

吹き抜けに面して窓のついた研究個室が並ぶ

ースの場合、継続的な経費確保の問題もあり、要望を訊くことさえ自重してしまいがちだが、必要に応じて見直しの提案ができるよう、日頃の情報収集や、利用者とのコミュニケーションに務めていきたいと感じた。

最終日は、バスで筑波大学中央図書館に移動し、改修工事を終えた新しいフロアを見学させていただいた。すべての科目を終えた後の開放感も手伝って、明るい館内を清々しい気持ちで歩いた。

時間をかけて討議をしたり、インパクトある講義の数々に刺激を受けたりするという経験は、日々の仕事からは得がたいものである。それらを共有できた研修同期とも呼べるつながりは、研修中から早くも威力を発揮し、オフタイムにも活発に情報交換が行われている様子だった。大学の枠を超え、同じ立場からの業務経験を直にきけたのも、大いに参考になった。筑波大学附属図書館のウェブサイトには、今年度の講義資料がすでに公開されているほか、昨年度からの試みである「受講生の声」もいずれ掲載予定と書いてある。研修直後の臨場感ある、率直なコメントが寄せられていることと思う。最後に、受講にあたり助言をくださった方々や、研修中や前後の手続きにおいても、隅々まで温かく支援してくださった筑波大学の皆様に感謝を申し上げる。

(はまぐち あつこ)

大学図書館職員長期研修

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/>

### 京都大学新任教員教育セミナーに図書館が協力

9月3日(金) 於：時計台記念館

9月3日に行われた標記セミナーに、図書館として初めて参加、「電子リソース・情報検索」のミニ講義やグループ討論の講師などでの協力を行いました。参加した新任教員は、対象者135名中約50名でした。

(セミナーの講義ビデオ・ノートは京都大学オープンコースウェアにて公開中)

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/center-for-the-promotion-of-excellence-in-higher-jp/02/video>

# KULINE新機能のご紹介

京都大学蔵書検索システムKULINEに新機能が追加され、より便利になりました。  
この機会に、ぜひKULINEを使ってみてください。

検索結果  
一覧画面で...

所蔵情報を確認  
ひとつの本を選んで、詳細表示させなくても、表示された複数の本の所蔵情報(所蔵館・配置場所・請求記号等)を一度にチェックすることができます。

プルダウンメニューから  
各機能選択  
特定の機能をすぐ使いたいとき、画面をスクロールせずに、プルダウンメニューから機能を選択して、すぐに利用することができます

The screenshot shows the KULINE search results interface. A left sidebar menu is highlighted with a callout. The main search results table is shown with a callout pointing to the '蔵書のみ表示' (Show only books) button and another callout pointing to the call number column. A dropdown menu is also shown with a callout.

No.	種別	書誌事項	巻開次等	所蔵館	配置場所	請求記号	状態
1	図書	1週間からできる海外ボランティアの旅：はじめてでもできる!本当の自分が見つかる感動体験 (所蔵：1件) 地球の歩き方編集室編 ダイヤモンド・ビッグ社 2002 (地球の歩き方Rocks)		人環総入	1F 和書	333.81411	貸出中
2	図書	アメリカ大学留学 / 地球の歩き方編集室編。— 2002-2003。— ダイヤモンド・ビッグ社。— (地球の歩き方 (所蔵：1件) 地球の歩き方編集室編。成功する留学；C).		人環総入	E2 書庫	377.6111	
		ダイヤモンド・ビッグ社。— (地球の歩き方 (所蔵：1件) 地球の歩き方編集室編；P).			1F 和書	377.6111	

“貸出ランキング” をチェック  
表示期間や所蔵館を選択して、ランキングをチェックできるので、テスト時期によく貸出される本や、特定の図書館でもっと貸出された本を知ることができます。

左メニューから

請求記号を見やすく表示  
請求記号にマウスカーソルを合わせると、ポップアップ画面でラベル表示に。請求記号のラベル表示状態がわかることで、目的の資料を探しやすくなります。

KULINEへのアクセスは・・・  
<https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/>

## KULINEで検索結果がヒットしなかった場合の表示

検索結果で何も見つからなくても、あきらめさせません!

今まであった「検索結果の変更」や「他大学を検索」といった選択肢に加えて、近くの公共図書館や国立国会図書館、海外の図書館を探す、図書館に聞いてみるといったアプローチが表示されるようになりました。

ノーヒットでも

指定された条件に該当する資料がありません

[検索条件]  
キーワード:

- ▶ キーワードの綴りや漢字は正しいですか
- ▶ ヘルプをしてみる
- ▶ 論文名で探していませんか?
- ▶ 他大学の所蔵を探してみる

### ▶ NII書誌検索結果

指定された条件に該当する資料がありませんでした。

.....

[検索条件]  
キーワード:

- ▶ キーワードの綴りや漢字は正しいですか? 検索条件の変更
- ▶ ヘルプをしてみる KULINE ヘルプ
- ▶ 論文名で探していませんか? KU ArticleSearch (論文検索)
- ▶ 近隣の公共図書館を探してみる 京都府図書館総合目録ネットワーク
- ▶ 国立国会図書館を探してみる NDL-OPAC
- ▶ 連想検索を試みる Webcat Plus
- ▶ 海外の図書館を探してみる WorldCat
- ▶ 図書館に聞いてみる 参考調査の申込み

## 京都大学ホームカミングデイ特別企画

### 「龍馬と半平太の手紙」

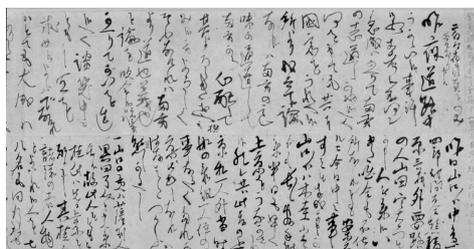
開催期間：2010年11月13日(土)～11月21日(日)

開催場所：京都大学総合博物館

協力：京都大学附属図書館

【展示品】坂本龍馬書状、武市瑞山(半平太)書状、  
武市瑞山(半平太)自画讃肖像ほか

坂本龍馬書状



武市瑞山自画讃肖像



[http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/ishin/shouin/doc/kaisetsu\\_j/no015.html](http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/ishin/shouin/doc/kaisetsu_j/no015.html)

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/ishin/kanren/doc/shoshi/00551.html>

## 海外研修 「イギリス・オランダの図書館調査報告」

附属図書館情報管理課図書情報掛 山中 節子  
(現情報サービス課)

人間・環境学研究所図書館学術情報掛 原竹 留美  
(現滋賀医科大学附属図書館)

人間・環境学研究所図書館情報管理掛 粉川 善史子  
(現附属図書館総務掛)

### 0. はじめに

平成 21 年度国際交流推進機構基盤強化経費に基づく教職員等の海外派遣事業によって、1 月 23 日から 31 日までイギリス・オランダの図書館を訪問する機会を得た。

訪問先は、ケンブリッジ大学図書館、ロンドン大学クイーン・メアリー校図書館、ライデン大学図書館、オランダ王立図書館とロンドン公共図書館である。

この研修では京都大学の図書館の今後のあり方について参考となるように、伝統ある大学や国立の図書館でしかも先進的な取り組みを行っている図書館を調査したいと考えた。

調査項目は、各図書館の特徴的な取り組みを中心に電子的資料の管理・提供方法や次世代 OPAC への取り組み、広報活動、中央館と学部図書館等との協力体制や、既存の建物の改装による学習環境の提供等について調査した。

本稿ではこれら調査項目の中から研修メンバーにとって最も中心的な課題であった次の二点、「利用者の意見を取り入れたサービスの取り組み」「電子リソースへの対応状況」について報告したい。

### 1. 利用者の意見を取り入れたサービスの取り組み

#### 1-1. ケンブリッジ大学図書館

ケンブリッジ大学は 1209 年創立の伝統ある大学である。学生数は約 18,000 人、教職員数

約 8,000 人の大規模大学である。

ケンブリッジ大学の図書館は、University Library (以下 UL) を中央館と位置づけ、分館を含め、100 館程度の図書館がある。

UL は研究用図書館であり、学部の図書館が教育用である。UL にはいわゆるサブジェクトライブラリアンは存在しないが、言語の専門家がいる。そのため蔵書構築においては、自然な「すみわけ」ができています。例えば、日本語など特殊言語の資料は研究用として UL に、日本について英語で書かれている資料は学部図書館に所蔵されている。

UL の資料の貸出は院生以上しか行っておらず、学部生への貸出はしていない。

#### 【利用者の意見を取り入れるための取組】

##### (1) Arcadia プロジェクト

ケンブリッジ大学図書館は Arcadia 財団の資金提供のもと、デジタル時代における図書館の学術的役割について探求するプロジェクトを 2008 年に立ち上げている。

いくつかのプロジェクトが推進されているが、二つのプロジェクトに注目した。

1 つめは IRIS プロジェクトというアンケートプロジェクトである。学部学生を対象として、彼らが有力としている情報源や電子リソースの認識について調査し、また、図書館を対象として、学生のセッションの参加率や、広報手段について調査した。

2つめは、M-Libraries - information use on the move という、携帯電話端末などによって移動しながらでも利用できる図書館サービスの可能性を探ることを目的としたプロジェクトで、大学構成員の携帯電話の利用機能を調査した。

これらのプロジェクトのレポートはホームページ上で公開されている。

## (2) 利用者アンケート

UL では、3年に一度、LibQUAL という市販パッケージによる利用者へのアンケート調査を実施し、それらの結果に基づいたサービスの見直しを定期的に行っている。LibQUAL は図書館用のサービス品質を測定するための調査ツールであり、22問程度の質問と自由記述欄で構成され、そこに書かれている意見が非常に有効であるという。最新のアンケート結果によると、ほとんどのサービスには概ね満足との回答が得られたが、学習スペースに関しては圧倒的に不足との回答があがっていた。UL を見学した際も、廊下や書庫と書庫の間にも机と椅子が設置されていて、その席も実際に利用されており、確かに学習スペースは不足しているという印象を受けた。

## 【UL のサービス拡大】

UL の Deputy Head of Reader Services の Lizz Edwards-Waller 氏に今後の UL のサービスについて尋ねたところ以下の答えが返ってきた。

- ・ 学部生へ貸出ができるようにしたい。
- ・ オンデマンドな図書館ツアーの実施
  - 学期の始めなど、決まった時期・時間の図書館ツアー以外に、利用者が少しでも UL に興味を持ったときに図書館ツアーに参加できるような体制を整える。(ウェブサイト上の動画による図書館案内、MP3 を利用した図書館ツアーなど)
- ・ 学習スペースの見直し

- ・ UL と学部図書館との連携強化
  - 現在 100 館程度の図書館がそれぞれに講習会などの催しを行っているが、それらを一覧できるところがないのでウェブサイト上で各館の広報を一覧できるページを作成する。
- ・ 利用対象グループを明確にし、ブログ、ツイッターなどの比較的新しい広報ツールも視野に入れる
  - 当時このように語られていたツイッターは現在 UL のウェブサイトで行くつか公開されている。

## 【まとめ】

UL ではサービスに利用者の意見を取り入れるために、定期的にアンケートを実施している。その結果はサービス改善に活かされ、常に利用者の意見を反映しようとする体勢がとられている。サービス拡大に当たっての根拠と方策が明確であり、今後のサービス展開について自信を持って語る Edwards-Waller 氏の姿がとても印象的であった。

## 【参考 URL】

- ・ Cambridge University Library  
<http://www.lib.cam.ac.uk/>  
 ( accessed 2010-09-10 )
- ・ Arcadia  
<http://arcadiaproject.lib.cam.ac.uk/index.php>( accessed 2010-09-10 )



ケンブリッジ University Library 外観

## 1 - 2 . ロンドン大学クイーン・メアリー校図書館

ロンドン市内にあるロンドン大学クイーン・メアリー校(以下QM校)は、Westfield College(1882年創立)とMary College(1887年創立)が1989年に合併して創立され、学生数約15,000人、教職員数約3,000人を擁する総合大学である。メインキャンパスであるMile Endキャンパスには、医学部以外の文理両分野の学部・研究科があり、図書館としてはMain Library(以下中央館)の1館がある。この図書館は1991年に建設、1998年に一部改築した経緯がある。

現在、中央館ではフロア改修プロジェクトが進行中である。図書館施設の改修・改築では、工事過程において休館、利用者サービスの縮小・停止が避けられないことが多いが、このプロジェクトは改修工事を二年間に渡って休学期に集中して行うことにより、利用者サービスにできるだけ支障がないように努めている。

本学では平成20年度に図書館機構が利用者アンケートを実施したが、QM校図書館でも定期的に利用者アンケートを実施し、その結果を図書館運営に生かすことが定着している。今回の改修にあたって利用者アンケートや学生組合、定期的に開催される利用者との意見交換の場である「Library Users Forum」において図書館への要望を収集し、プロジェクトに反映させたという。

改修の大きな特徴は、利用者グループを学部生と院生以上の研究者とに分け、各グループが図書館に何を求めているかを見極め、利用対象グループを想定したフロア改修をするという点である。学部生(特に理工系)は、カリキュラム上、グループ学習やプレゼンテーション練習が欠かせないため、それらを行う「場」を必要としている。そのため1階(英国ではGround Floorにあたる)に学部生の利用を想定した施設を整備、設置する。例えば、グループ学習室、

40人規模の研修室の機器類を含めた整備や、グループ用のオープンスペース、PCエリア、カフェなどである。冊子体資料としては授業等でよく利用されるコレクション等が設置される。対して院生以上の研究者は、研究図書、図書館が提供する電子資料・データベース等の利用の「場」を必要としている。そのため2階および3階には、冊子体資料やPCエリア、研究個室の整備、院生以上の専用エリアなどを設置する。

QM校図書館における改修は、利用者動向を把握し、利用者の要望を検討して実施している点にたいへん感銘を受けた。このプロジェクトは2010年の夏季休学期に第二段階の大規模な工事が予定されているが、フロアデザインや家具、館内サインなどはインテリアデザイナーによるトータルデザインだという。訪問した2010年1月26日時点は改修の第一段階が終了した時期で、館内では各種設備が仮設置されている状態であったが、プロジェクト完了後に再訪したい図書館である。

### 【参考URL】

・ University of London Queen Mary Library  
<http://www.library.qmul.ac.uk/>  
(accessed 2010-09-10)



ロンドン大学QM校 Main Library 外観

### 1 - 3 . ライデン大学図書館

ライデン市内にあるライデン大学は、1575年に創立されたオランダで最も歴史のある大学であり、学生数約17,000人、教職員数約4,000人を擁する総合大学である。University Library(以下中央館)のほかに10館程度の図書館・室がある。中央館周辺には医学部以外の文理両分野の学部・研究科がある。この中央館は1980年に建設、1982年に一部改築した経緯がある。

この中央館に新設された二つの施設について紹介する。

(1) 1階フロアのゾーニング見直しが行われ、フロアの中には新たなサービスカウンターと、利用者がくつろげる円形ラウンジが完成した。この円形ラウンジには約15脚のデザイナーズチェアやラウンドテーブルがあり、人気のスポットとなっている。円形を成す書架には展示ケースや検索用PCも備えられている。このエリアは黒と赤を基調として、デザイン性に優れている印象を受けた。

(2) 中央館では大半の蔵書は閉架書庫に収められ、日本の多くの図書館のように分野別ではなく、資料のサイズおよび受入順に配架されており、利用者が立ち入ることはできない。そのため利用者はOPAC(オンライン蔵書検索システム)で利用したい資料を検索、出納予約をオンライン上でを行い、その後、カウンターで受け取るという方式が実施されていた。しかし、カウンター職員がいない時間帯には資料の受け渡しができず、利用者にとって不便が強いられていた。

このような状況を解決するために導入されたのが「貸出用ロッカーシステム」である。詳細は下記のとおり。

OPACを通してオンライン上で出納予約をする。資料が用意できたという連絡を本学のMyKULINEにあたるパーソナル画面で確認する。(原則約1時間後に資料は用意される) 1階サービスカウンター横に設置された600以上の

ロッカーを擁する「貸出用ロッカーシステム」にてIDカードをシステム画面にかざす。資料が用意されたロッカー番号が表示され、同時にそのロッカーの扉が開く。利用者はそこから資料を取り出すだけで、貸出手続きは必要ない。ロッカーの扉が開くと同時に個人への貸出処理が行われているからである。

このシステムは利用者の迅速な資料へのアクセス拡大につながり、たいへん有意義である。利用者からはたいへん便利になったと好評だという。

利用者へ快適な利用環境を提供するためのフロア改修や、画期的な「貸出用ロッカーシステム」など活発な図書館活動を実際に見ることができ、利用者目線で図書館サービスを見直す必要性を痛感した。

#### 【参考URL】

- ・ Leiden University Library  
<http://www.library.leiden.edu/>  
 (accessed 2010-09-10)



ライデン大学 University Library ラウンジ

## 2 . 電子リソースへの対応状況

### 2 - 1 . ケンブリッジ大学図書館

ケンブリッジ大学は英国の納本図書館の一つで膨大な蔵書量を誇る。年間図書受入冊数は10万冊以上である。これら膨大な資料に加え、電子ジャーナルは約21,000タイトル、データ

ベースは約400種を導入。機関リポジトリは2003年から開始されており、学位論文の登録数は43,000件にのぼる。同図書館では「e-thesis depositing」という学生が自分で学位論文をリポジトリに登録できるシステムを構築している。OPACでは中央館と分館や、各図書館毎に検索できる既存のOPACに加え、「Universal Catalog」という全学の統合蔵書検索サービスを構築中である(なお、本年8月末にはAquaBrowserによる新OPAC「Library Search」(ベータ版)が公開されている)。

また、電子リソースの管理・サービスツールとしてEx Libris社の「MetaLib」「SFX」「Verde」が導入されている。これらの電子リソースの選定やデータ整備はElectronic Services and Systems部門が行っている。例えば電子ブックの個別目録を取る場合も目録部門ではなくこの部門が作成している。

また、電子リソースの購入は、学部図書館間で協力して重複がないよう選定したり、Schoolという学内組織で選定を行う仕組みが作られている。

電子リソースの進展に伴い、中央館と各図書館間の連携や中央化が進められつつあるとのことであった。

## 2 - 2 . ロンドン大学クイーン・メアリー校図書館

クイーン・メアリー校図書館では所蔵目録、電子ジャーナル・電子ブック、データベースの各データを一度に検索できるシステムを構築するプロジェクトである“Single-Search Implementation Project”が進行中である。導入予定のシステムは“Endeca Information Access Platform(IAP)”で、いわゆる次世代OPACを実現する。同校では、各社のシステムを詳細に検討した上でEndecaに決定した。

IT & System ManagerのJeremy Acland氏によると、Endecaは、検索性に優れている、

インデックスが良い、軽い(速い)、インターフェースに優れており、さらに図書館以外の企業でも導入事例がある点を評価したとのことである。

Webサイトでプロジェクトが進行中であることを簡潔に情報発信されており、広報面でも工夫されている。

[http://www.library.qmul.ac.uk/projects/single\\_search](http://www.library.qmul.ac.uk/projects/single_search) (accessed 2010-09-10)

## 2 - 3 . ライデン大学図書館

古くからの大学街ライデンを訪問した日は時折雨模様で寒かった。幸い強い雨には遭わなかったが、あとでライデンは海が近いため天気が変わりやすいと伺った。

さて、落ち着いたたたずまいのライデン大学だが、図書館における取り組みはとてもダイナミックで目を瞠った。

ライデン大学では、電子ジャーナルは約15,000タイトル、電子ブックは約100万冊が提供されている。電子リソースの管理・提供ツールは、「SFX」「MetaLib」「Verde」を導入。OPACは次世代OPACではないが、「SFX」や「Google Book Search」へのリンクがタブ切り替えで表示されており、シンプルで使いやすい。

また、2009年10月の「オープンアクセスウィーク」では、学内研究者に機関リポジトリへの登録をアピールする活動を展開し、期間中の登録が約300件あったとのことである。

伝統ある大学であるが、各種の電子リソース管理提供ツールを使い、冊子及び電子的資料を利用者に提供する様子が窺われて大変参考になった。

また、ライデン大学図書館では、図書館長の指導の下に学内の小規模図書館を中央館に統合する計画が進められている。統合により、小規模図書館の開館時間が短い点などのサービス面を改善し、さらに中央化によりデジタル分野での世界的な動きの速さに対応できることを目指



東亜図書館が入っている学舎

されている。今回、中央館の他に事情を伺った東亜図書館では、まず2009年9月に日本・韓国言語文化図書館と中国言語文化図書館が統合され東亜図書館となった。お話を伺ったP.L. Wijsman氏によると、氏の所属も文学部から中央館に変更になり、予算の配分元は学部から中央館に変更になった。さらに、5年後に中央館に移られる予定である。

### 3. おわりに

以上のように今回訪問した図書館では、利用者の意見を取り入れたサービスや、図書館サービスの充実のため、改装・改修を行う一方で電子リソースの提供にも力を入れていた。また、それらをよりスムーズに実現するために図書館を統合している大学もあった。

現在、大学図書館では伝統的な紙媒体等に加え、電子ジャーナルなどの新たな形態の資料が増加している。それに伴い、IT技術の進歩の下でいかにこれら新たな資料群をコレクション形成し、既存の紙媒体の資料とともにいかに利用者に効果的に提供するかが大きな課題となっている。一方で、図書館という場における快適な学習・研究環境の提供機能についても見直しが行われている。つまり、来館型サービスと非来館型サービスの総合的プロデュース力が大学

図書館に求められている。今回訪問した各大学はまさしくそれらの実行を行っている図書館であった。

実は、今回どこの図書館でも、案内いただいた先方の図書館員との記念写真的な集合写真を一枚も撮っていない。帰国後に少々後悔したが、研修時には各ご担当者のお話を時間いっぱい伺い、館内を歩き回り、質問するのに必死だった。このような我々に対し、親身にご対応下さった図書館の皆様には大変お世話になり感謝している。特に、ケンブリッジ大学図書館日本部長の小山騰氏、ライデン大学東亜図書館のP.L. Wijsman氏には、ほぼ一日中付き添っていただき、訪問時の日本語による概要説明から、各担当者との面談のフォローまで助けていただいた。海外で、ベテランの日本担当司書にご助力いただけて本当にありがたかった。今回の報告では、海外における日本語資料の提供状況については割愛したが、大変参考になる話をお聞きできた。

海外研修では、国内での研修にも増して、研修者のこれまでの知識や経験を総動員し、事前準備と実研修に当たらなければならない。また、事後学習を通じ、新たに得た知識や研修の経験をさらに深めることができる。このような海外研修制度が本学にあることは大変意義深く、職員研修に対する大学の意識の高さを示していると言える。研修の機会をいただき本当にありがたかった。

この場をお借りして、お世話になった全ての方々に心より深く感謝申し上げます。

(やまなか せつこ)

(はらたけ るみ)

(こかわ よしこ)

## 「プレスリリース論文」の収集・公開

「キャベツがうそをつく？」などの研究成果を掲載

京都大学の研究・教育成果を発信する京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）では、2009年9月から新聞各紙で報道されたインパクトの高い研究成果のうち、出版社および著者の許諾が得られた論文全文を「プレスリリース論文」と名付けて公開しています。

2010年5月からは、大学の広報を担当する総務部広報課と連携して、最先端の研究成果をできるだけ迅速に公開できるよう対象論文の情報を収集するほか、大学の研究成果を紹介するWebサイトからKURENAIへのリンクをはってもらい、よりたくさんの方の目にふれてもらえるようにつとめています。

### これまで KURENAI で公開したプレスリリース論文（一部）

プレスリリース論文「ヒトの顔知覚様式の進化の起源 - 3000 万年前にはすでに獲得」を公開  
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=557> (2009/09/17)

プレスリリース論文「精子幹細胞からの生殖細胞腫瘍モデルの作製に成功」を公開  
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/wordpress2/index.php?p=9> (2009/12/28)

プレスリリース論文「神経抑制因子 Rest のマウス ES 細胞における役割解明」を公開  
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/wordpress2/index.php?p=23> (2010/1/28)

iPS 細胞研究所の最新論文「形質転換活性を欠損した Myc によるリプログラミング促進効果」を公開  
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/wordpress2/index.php?p=82> (2010/7/28)

キャベツがうそをつく？生態学研究センターの成果を KURENAI に掲載  
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/wordpress2/index.php?p=84> (2010/8/9)

男性は「あの頃はよかった」にくすぐられる？ノスタルジア広告の効果を分析した論文全文を公開  
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/wordpress2/index.php?p=89> (2010/10/13)

「プレスリリース論文」を含めて大学で日々創りだされる研究成果は、多くの場合、学術雑誌に論文という形で発表されます。しかし、研究内容に関心があっても論文をみたいと思っても、冊子を購読していない、あるいは電子ジャーナルを契約していない大学や企業の研究者、学生、一般の方などは本文を読むことができません。KURENAI ではこのような論文の全文を公開することにより、京都大学の研究活動の視認性やアクセシビリティを高め、学内外を問わず、関心をもつ様々な方々に向けて発信することで、その成果を広く社会に還元していきたいと考えています。

(附属図書館電子情報掛)

京都大学学術情報リポジトリ  
**KURENAI**   
 Kyoto University Research Information Repository

## 教員著作寄贈図書一覧 (平成22年6月～平成22年10月)

身分・所属	寄贈者氏名	書名	出版社	出版年
元 総 長	長 尾 真	情報を読む力、学問する心	ミネルヴァ書房	2010
人文科学研究所	高 木 博 志	陵墓と文化財の近代	山川出版社	2010
名 誉 教 授	祖 田 修	農学原論	岩波書店	2005
名 誉 教 授	祖 田 修	食と農を学ぶ人のために	世界思想社	2010
理 学 研 究 科	町 田 忍 藤 浩 明	太陽地球系科学	京都大学学術出版会	2010
名 誉 教 授	苧 阪 直 行	脳イメージング	培風館	2010
名 誉 教 授	金 田 章 裕	Proceedings of the 14th international conference of historical geographers, Kyoto 2009	京都大学学術出版会	2010
経済学研究科	坂 出 健	イギリス航空機産業と「帝国の終焉」	有斐閣	2010
名 誉 教 授	梅 棹 忠 夫	梅棹忠夫 語る	日本経済新聞出版社	2010
学 術 情 報 メディアセンター	土 佐 尚 子	カルチュラル・コンピューティング	NTT出版	2009
高等教育研究 開発推進センター	松 下 佳 代	新しい能力 は教育を変えるか	ミネルヴァ書房	2010
人文科学研究所	田 中 雅 一	人類学の誘惑	京都大学人文科学研究所	2010
人間・環境学研究科	廣 野 由 美 子	エリザベス・ギaskellとイギリス文学の伝統	大阪教育図書	2010

この一覧は附属図書館への寄贈者著作のみの掲載となっております。上記以外にも多くの図書を附属図書館や部局図書室にいただきました。今後とも蔵書充実のためご寄贈いただきたくよろしくお願いたします。

**附属図書館は、試験期間中の土日祝日の利用時間を延長します**

**「附属図書館」・「学習室24」とも10:00 - 22:00**

平成22年度は、試験期間の土日祝日の利用時間を延長します。(1月15日 - 2月6日)  
ただし、試験期間以外については、現行の利用時間(10:00 - 17:00)で引き続き運用します。  
詳しくは、附属図書館ホームページやLSNなど、図書館からのお知らせをご覧ください。

## 図書館の動き

平成22年

7月 7日	目録システム講習会( 図書コース～9日)	3日	京都大学新任教員教育セミナー
12日	図書館協議会第一特別委員会		図書館研究開発室協議会( 仮称) 設立準備会
22日	図書系連絡会議 実査意見交換会	13日	図書館協議会第三特別委員会
26日	図書館協議会認証システム監理特別委員会 図書館協議会学術情報リポジトリ特別委員会	14日	図書館協議会第一特別委員会
29日	図書館協議会第三特別委員会 図書館協議会第二特別委員会	22日	図書系連絡会議
30日	国公立大学図書館協力委員会( 阪市大)	24日	図書館協議会( 平成22年度第2回)
		28日	個人情報保護に関する講習会
8月11日	オープンキャンパス( ～12日)	10月 5日	大学図書館職員短期研修( ～8日)
		21日	図書館協議会第三特別委員会
9月 2日	京都図書館大会( 同志社大)	27日	国立七大学附属図書館協議会( 東大)
		28日	図書系連絡会議 OCLC報告会

## 目次

静脩企画 教員から学生諸君へ「私がすすめる図書館利用法」	1
吉川 真司・疋田 努・西山 良平・佐藤 卓己・竹澤 祐丈・中村 武恒・猪飼 宏	
教育学研究科・教育学部図書室 - 耐震改修工事を終えて	10
大学図書館職員長期研修に参加して	12
浜口 敦子	12
KULINE新機能のご紹介	14
海外研修「イギリス・オランダの図書館調査報告」	
山中 節子・原竹 留美・粉川 善史子	16
KURENAIコンテンツ紹介	22
教員著作寄贈図書一覧	23
図書館の動き	24

### 編集後記

今回は、7人もの先生に寄稿していただき、充実した企画となりました。寄稿していただいた先生方には御礼申し上げます。疋田先生の写真については、蛇を載せるか載せないかで、編集担当者間で議論になりましたが、やはりそのインパクトは捨て難しということで、トリミング等はせずにそのまま掲載させていただきました。また、長期研修報告は久々の復活企画です。こういった、図書館職員の活動の記録を留めておくのも図書館機構報の重要な役目ではないかと考えます。(H)